

令和8年8月14日

9時00分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 10 番 氏名 沖田真治

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

1. 今後のまちづくり政策について

(1) これまでの地域づくりと、これからの支援のあり方について

まちづくり総合交付金をはじめとする地域単位への支援は、これまでの地域活動や地域の特色を支える役割を果たしてきた。一方、制度創設から長い年月が経過し、人口構造や地域の担い手など、当時とは地域を取り巻く環境が大きく変化している現状を踏まえ以下のとおり質問する。

- ① 現在のまちづくり総合交付金制度をはじめとする地域づくりに係る支援について、市としてどのような成果があったと評価しているのか伺う。
- ② 人口減少や高齢化、担い手不足など地域を取り巻く環境が大きく変化する中、これまでの仕組みを維持するだけでなく、今後の地域の実情に応じた支援のあり方を変えていく必要があるのではないかとと思うが、市としての考えを伺う。

(2) 複雑化する地域課題に対応する、まちづくりの仕組みについて

人口減少や高齢化が進む中、買い物、通院、移動、独居高齢者への支援など、これまで地域で担ってきた課題についても、地域の担い手が減少し、地域だけでは対応することが難しくなっている。

こうした課題を行政がすべて担うことも、人員や財政の面から限界があり、地域と行政の双方が限界を抱える中で、従来の地域単位の取組に加え、地域内外の人や民間等の力をどのように取り入れ、これからの地域課題に対応していくかを考えた政策が必要であると考え以下のとおり質問する。

- ① 担い手の不在、高齢化により、地域だけでは解決、完結できない課題が増える中、これからの地域づくりにおいて行政はどのような役割を担うべきと考えているのかを伺う。

- ② 地域だけでは課題の解決を担えない、行政にも人員や財源の限界がある中、これまでのように地域活動そのものを支援することを中心とするのではなく、地域が抱える課題を把握し、地域内外の人や資源をつなぎ、解決に向けて地域をマネジメントできる人材を育成・確保する方向へ、支援のあり方を転換していく必要があると考えるが、市としての考えを伺う。
- ③ 今後、さらに高齢化が進むことが予想される中、買い物、通院、移動、独居高齢者への支援など、地域が抱える課題には、まちづくりという枠組みだけでは対応することが難しいものも増えてくるように思う。福祉や生活支援などの分野の人員、財源などの行政資源が限られる中、今後は、まちづくりと福祉を所管ごとに分けて考えるのではなく、連携し地域課題に向き合うことを強化させる必要があると考えるが、市としての考えを伺う。

(3) 浜田市にある価値と、これからの「人への投資」について

人口減少や少子高齢化が進む中、人口増加や企業誘致など、従来の成長を前提としたまちづくりだけでは、浜田市の将来を描くことは難しい。だからこそ、ないものを求め続けるのではなく、既に浜田市にある暮らしや環境、人とのつながりなどを見つめ直し、そこに新たな価値を見いだすことで、浜田で暮らす満足度を高めていくことにつながるのではないかと考える。

そのためには、地域課題を自ら見つけ、考え、行動する人が増えることが重要であり、そうした人材を育て、活動を支えることが結果として地域の新たな価値を生み、浜田に暮らすことの満足度を高めることにつながるものであり、そのためには人への投資が重要になると考え以下のとおり質問する。

- ① 人口増加や企業誘致など、従来の成長を前提としたまちづくりに加え、浜田に既にある暮らしや環境、人とのつながりなどの価値を見つめ直し、それを市民の暮らしの豊かさにつなげていくことを、今後のまちづくりの政策の柱の一つとして考えていくべきと考えるが、市長の考えを伺う。
- ② 今後、人口減少や高齢化の進行に伴い、福祉や生活支援など行政が担うべき分野に、より多くの人員や財源が必要となることが想定される。その一方で、住民が自ら考え行動し、地域課題に取り組むことができれば、限られた行政資源を必要性の高い分野に振り向けることにつながると考える。
「人への投資」を実効性のあるものにするため、地域で「やってみたい」と思う人を発掘し、その思いを具体的な活動につなげ、継続的に支援するための仕組みについて、行政組織に限らず、民間を含む多様な主体の活用や、他自治体の取組事例も参考にしながら、浜田市として検討する考えはないか伺う。